資料８－１

ヒアリングの状況（ミトンの会・ファミリー学級）

子育て支援サークル「ミトンの会」及び 西東京市が実施している「ファミリー学級」でのヒアリングについて、概要を報告します。

【総括・課題】――――――――――――――――――――

ニーズ調査の結果を考察する内容と、現在の心配や要望について、ヒアリングを行いました。２件のヒアリングを通じての総括は、次のとおりです。

- 実家に近いところでの子育てを希望して西東京市に引っ越して来たり、家を購入できそうな地域として西東京市を選んだり、職場へのアクセスと家事・子育ての両立を考えて西東京市に転入している方も多いようでした。しかし、保育園への入りにくさから就労を諦めざるを得ないケースや、近隣区部と比較して西東京市の子育て支援が不満であるとコメントする母親が多いという印象を受けました。

また、課題としては、次の点が挙げられます。

- 西東京市在住期間の短い妊婦への、子育て期（保育を含む）の情報提供の改善
- 求職中やパートで働いている母親への保育（認証保育所・幼稚園の預かり含む）に関する相談やコーディネート支援の充実
- リフレッシュも含めた一時預かりの充実

――――――――――――――――――――――――――――

１　子育て支援サークル「ミトンの会」でのヒアリング

(1)　実施日時：平成 26 年２月７日（金）　午前 10 時 30 分～11 時 30 分

(2)　実施者：上田専門委員、吉田委員、事務局

(3)　対象者：大人９人（主に就学前のお子さんの母親）、子ども（主に１歳前後）11 人

(4)　ヒアリングで寄せられた声の概要

① ひろばに参加している理由

：子どもの発達に応じた遊び場として、子育て広場を利用している

- この会と、「のどかひろば」を利用している。子どもが歩き始めたので、自宅から遠くても広いところを選んでいる。公園でもいいが、より安全に整備されているところを選んで通っている。
- 子どもが小さくて、大きい子がいるところでは、うまく遊べないので、広場であれば、遊びやすいので、ここに来ている。
- 年子の子どもがいるので、近いところでないと、遊びに来られない。ここは近いので、よく遊びに来ている。

② 家庭で子育てしている方に必要なサポート

：就労していない親が、自分の時間を持てるよう支援してほしい

- 以前に住んでいた北海道では、今週は親が楽しめるフラワーアレンジメント、次週は親子で楽しめるイベントなどがあり、子どもと離れられる時間をつく

ってくれていた。在宅で子育てしていると、子どもと離れる時間をほしいと感じるときがあるが、そこを支援してくれるものを充実させてほしい。

- 働いている親への支援だけでなく、自宅で子どもを育てている親への支援、例えば保育やイベントなどの実施をお願いしたい。
- 子どもと離れて、自分の時間を楽しみたいという思いもある。実家が近いときは、実家に預けて、何とか自分の時間をつくった。
- 子どもの面倒を祖父母にみてほしくて、自分の実家の近く（西東京市）に引っ越してきた。自分の時間をつくるのは、実家に頼まないととても難しい。

③ 家庭で子育てしている方に必要なサポート

：就労していない親にも、緊急一時保育を利用しやすくしてほしい

- 緊急保育・一時保育の選考基準が不明。一時保育の登録をする書類に、利用の優先順位について、説明がない。働いていないと結局は入れないのかなと思う。
- 緊急保育は、手続に時間がかかりすぎるので、結局、緊急には使えなかった。
- 夫が土日も仕事があることが多いので、土日などの一時保育を充実させてほしい。
- 夫の実家は近いが頼りにくいので、お金を払ってでも一時保育を利用したい。
- 一時保育を利用して仕事をしている人が優先になるのだろうが、仕事以外の私用でどうしても預けたいときもあるが、結局、利用できない。利用の優先順位を明確にしてほしいし、見直してほしい。
- 就活をしたいが、保育先が見つからない。就活のための保育も、充実させてほしい。一時保育を、そういった人が使いやすいようにしてほしい。
- 近隣区部の子育て支援について情報を得ている母親・友人が多く、西東京市での子育てと仕事の両立は、区部よりも難しいと感じている。
- 西東京市に引っ越してたいが、待機児童が多いという口コミがあり、引っ越してくるのを止めた友人がいる。実際、仕事をしていないと預けられないと感じている。保育の条件が就労だと、外で仕事をしていない人が保育を利用するのは、ずっと困難なままで解消されないと思う。
- 西東京市に引っ越してから、保育園に申込みしているけれど、今でも通えていない。とても不安がある。自分には子どもが３人以上いるが、病気のある子もいて就労できない。保育園に通えない人は、同じような不安を抱えていると思う。
- ファミリーサポートを使おうと思ったが、家に来てくださる方の顔がみえないので、頼みづらい。事前に予約しないといけないのも、使いづらい。やはり、緊急一時保育や一時保育を充実させてほしい。

④ 家庭で子育てしている方に必要なサポート

：就労している親（育休中）へのサポート

- 保育園の申込みをしたが、入所できていない。認証保育でも 50 人～100 人待ちのところがあると聞く。西東京市は保育が受けられないという口コミが、あちこちで流れている。市の北側に保育施設がほぼないということも口コミ

で知られている。最近、北側にはマンションや家がたくさん建てられているが、それに見合った保育施設がないので、整備してほしい。

- 幼稚園で、預かりを充実させてもらえるとありがたい。春休み・夏休みなど、長期の休みに対応してほしい。満三歳になれば入れる幼稚園もあることを知らなかった。もっと幼稚園の情報がほしい。
- 現在、育休中で保育園の入園結果待ちであるが、もし入れなかったら、その後、認証とかどのように保育場所をみつけていいのか分からない。
- 幼稚園・保育園・それ以外の子育て支援の情報も、入手しにくいと感じている。冊子を見ている時間がないし、紙は子どもに破かれてしまうので、スマホで気軽に情報を得られるように情報発信してほしい。
- 送迎保育ステーションについて、自分は朝早く出勤するので、駅でお迎えしてくれるとか、駅で子どもを預かってもらえる送迎保育ステーションがあれば、体が楽で助かる。
- 送迎保育ステーションより、駅の近くや駅ビルに、１つ新しい保育園をつくってほしい。送迎保育ステーションは、実際に子どもを預かる先生と子どもの顔合わせが少なくなりそうで、子どもにとって良いかどうか疑問だと思う。

⑤ 子どもの育ちのために必要な集団での教育・保育（ニーズ調査関連）
：２歳くらいから

- （ニーズ調査の結果を示し、「お子さんの育ちのために、集団での教育・保育施設の利用は何歳から必要だと思いますか」と尋ねたところ）集団での教育・保育は、２歳ぐらいから利用したい。２～３歳になると、子どもの活発さに母親だけでは対応しきれず、また、子育て支援施設でも同年代より少し大きい子どもが多いと危なくて利用が難しくなるので、幼稚園・保育園でみてほしい。（意見多数）
- 保育付きの講座やイベント、一時保育など、特に専業主婦が、子どもと少しでも離れることができる機会をつくってほしい。

２　ファミリー学級でのヒアリング

(1)　実施日時：平成 26 年２月７日（金）　午前 12 時 20 分～13 時 00 分
(2)　実施者：上田専門委員、事務局
(3)　対象者：プレママ 10 人、プレパパ２人
(4)　自由記載の方式による調査※：妊娠中の方には長時間のヒアリングが困難であることから、ヒアリングを補足するため、自由記載の方式による調査用紙を配布し、記入をお願いしました。

※この調査については、３月７日にも実施しますので、とりまとめて報告します。

(5)　ヒアリングで寄せられた声の概要

① ファミリー学級への参加理由
：妊娠期・子育て期に関する情報がほしいので、参加している

- 西東京の在住歴 3 年未満で有職者の方が多く、西東京市の情報を得る目的もあってファミリー学級に参加していた。これらの方は、西東京市内に家を建てて、家族で長く暮らすつもりであるとのこと。
- 出産後の市の子育て支援については、グーグルなどで検索したときに見つけられるならインターネットで探してみたいが、紙媒体での情報提供の方が読みやすい。
- 自分は里帰り出産なので、知り合いが多いが、引っ越して間もない人もいるだろうから、マタニティ用の体操教室などがあると聞いている。そういった情報を発信してほしい。自分の場合は、姉から聞いた。プログラムはあると思うが、情報が周知されていないように感じる。

② 妊娠期の方に必要なサポート

：親同士の交流やリフレッシュ

- 妊娠中のサポートは、出産経験のある友達に電話してきいている。市のホームページなどを見ることもあるが、まず糸口になるのは、友達からの情報である。
- 子どもが生まれた後の、昼間の時間の使い方については、今からどうしようか、一人で悶々としているのかなと不安がある。今日みたいな集まりがあれば、参加したい。検診などで、近所の人同士で友達になっていくと思うよという話はきく。今日の講座の体操などは、とてもよかったなと思う。外に出るとリフレッシュになるし、同じくらいの妊娠期などにある人同士で話を聞けたりしたらいいなと思う。
- プレパパ：同時期にあるようなパパ交流会のような場があれば、参加してみたい。実情をお互いに情報交換してみたい。

③ 妊娠期の悩み

：保育について心配がある

- まだ産休にも入っていないが、保育園に入れるのか、今から心配している。
- 保育園に入れるかの心配は大きいが、保育園や子育て支援について具体的な情報は得ていない。市内の産後ヘルパーなどを探したが、ネットでも検索に引っかからない。
- 保育施設などを、できれば妊娠中に見学してみたい。

④ その他

：健康政策の一環として禁煙を進めてほしい

- プレパパ：共働きなので、駅まで歩いていくのだが、歩きたばこが気になる。妻が妊娠する前は気にならなかったが、今は駅前だけではなく、市の施設全体で全面禁煙にしてほしい。

資料　８－１

ヒアリングの状況（ファミリー学級アンケート集計結果）

１　実 施 日　　平成 26 年２月７日　及び　同年３月７日
２　実施場所　　保谷保健福祉総合センター２階
３　実施方法　　ファミリー学級の配布資料と併せて、アンケート用紙を配布。当日回収。
４　結　　果
（１）回 答 者　　プレママ（妊娠中の方）28 人　、プレパパ（パートナーの男性）６人
　　合計 34 人
（２）回答内容

①　子育てのサポート（相談を含みます。）について

76%の方は、自分たちの親から支援が受けられそうであると回答されました。

このアンケートは、選択肢から選ぶのではなく自由記載方式ですので、<u>記載のなかった方の「支援が受けられない」とは限らない</u>点に、留意が必要です。

子育てに関する相談ができるところについては、昨年度実施したニーズ調査でも伺っており、就学前児童調査の問 38 で最多が配偶者で 84.2%、子どもの祖父母が第２位で 70.7%、小学校児童調査の問 33 で最多が配偶者で 76.0%、友人知人が第２位で 73.3%、子どもの祖父母が第３位で 60.7%という結果でした。

支援が受けられそうな相手	プレママ※	プレパパ※	合計※
自分たちの親（子どもの祖父母）	２１人	５人	２６人
夫（パートナー）	７人	０人	７人
友人等	１人	０人	１人
特にいない（自分ひとりで育てる）	２人	０人	２人

※この設問は複数回答が可能なので、人数を合計すると回答者数を上回ることがあります。

②　今後の本人の就労予定（プレママのみの設問）

半数の方は、フルタイムでの就労を希望されていました。

また、パートタイムでの就労を希望される方と、就労予定のない方とが同数で、各々が全体の約 18%でした。

就労予定	プレママ
フルタイムで復帰（時間短縮を活用）	１４人
パートタイムで復帰	５人
就労の予定なし	５人
自宅就労	２人
育休後、復帰（就労形態不明）	２人

フルタイム又はパートタイムで就労されている方が、復帰を希望する時期は、お

子さんが１歳前の４月又は１歳ごろと回答した方が最も多く合計 10 人で、全体の約 36%でした。

復帰時期	プレママ
１歳前の４月から	７人
１歳ごろ	３人
２歳ごろ	１人
３歳ごろ	１人

③　子どもの育ちのための教育・保育

親の都合ではなく、子どもの育ちのために、集団での教育・保育が何歳から必要と考えるか伺ったところ、最多は３歳で平均 2.30 歳からとの結果でした。

また、平成 25 年に西東京市で行ったニーズ調査でも、この設問と同じ内容を伺っており、就学前児童調査の問 14 で最多が３歳で平均 2.61 歳、小学校児童調査の問 36 で最多が３歳で平均 2.62 歳との結果でした。

就労予定	プレママ※	プレパパ※	合計※
早いほどよい（０歳）	２人	２人	４人
１歳	３人	２人	５人
２歳	８人	０人	８人
３歳	１９人	１人	２０人
４歳	４人	１人	５人

※「３～４歳」と幅のある記載については、３歳と４歳とに各々１人を加えて算出していますので、合計の人数は実際の回答者数を上回っています。

④　アンケート記載者の情報

西東京市での在住年数について、３年以内の方が約 53%、20 年以上お住まいの方が約 18%でした。

在住年数	プレママ	プレパパ	合計
１年以下	８人	２人	１０人
２～３年	６人	２人	８人
４～９年	８人	２人	１０人
20 年以上	６人	０人	６人

居住地域

参加者の居住地域は、市の北側と南側とで、およそ半数ずつでした。

居住地域	プレママ	プレパパ	合計
北（西武池袋線の北側）	３人	１人	４人
中北（西武池袋線の南側）	１０人	１人	１１人
中南（西武新宿線の北側）	９人	３人	１２人
南（西武新宿線の南側）	３人	１人	４人

現在の就労状況（プレママのみの設問）

就労されている方が、およそ６割でした。

就労状況	プレママ
就労中で産休取得予定	１５人
専業主婦	７人
その他（自宅就労、フリーター等）	５人

⑤　西東京市への要望

要望の内容	プレママ※	プレパパ※	合計※
保育園等の施設の増設	４人	１人	５人
親同士の交流会やサークルのＰＲ	３人	１人	４人
助成金、医療費の無料化等、経済的な支援	３人	０人	３人
家事支援の導入や親へのイベント実施等、親への支援の充実	２人	１人	３人
初産の人のための指導の充実	２人	０人	２人
幼稚園等での子どもの教育の充実	１人	０人	１人
保育園での延長保育の充実	１人	０人	１人
ボール遊びができる公園等、遊び場や施設の詳細な情報提供	１人	０人	１人

※この設問は複数回答が可能なので、人数を合計すると回答者数を上回ることがあります。

５　考　察

子育てのサポートについて（①）は、多くの方は自分たちの親から支援が受けられそうであると回答されました。妊娠中の方々は、勤務のあるパートナーより、昼間も家にいてくれる可能性の高く、子育ての経験もある自分たちの親の支援を頼りにしているようです。平成 25 年のニーズ調査でも伺っている「子育てに関する相談ができるところ」の設問と比較すると、妊娠期の方は子育て経験の豊かな自分たちの親に相談等の支援を

期待する一方、子育て中の方は配偶者との協力関係に対する期待が大きく、お子さんの年齢が上がるにつれ、自分たちの親に相談するよりも、配偶者や友人・知人との関係の中で子育ての悩みを解決している傾向が示唆されました。

子どもの育ちのための教育・保育（③）については、最多は３歳で平均 2.30 歳からとの結果でした。一方、前問（②）では、親（自分）の就労復帰の時期が１歳前後を予定しているとの結果でした。このことから、可能であればお子さんが３歳くらいになる年齢までは子育てに専念したいと思っていても、育休制度の関係等から現職を維持するためには１歳前後から復職しなければいけないという状況があるのではないかと考えられます。昨年度のニーズ調査の結果と比較すると、妊娠期にある方も、実際に子育て中の方も、２歳を過ぎたころから集団での教育・保育が必要だと考えていることが示されました。

西東京市への要望については、保育園等の充実を求める方と、親同士の交流の場を求める方とがほぼ同数という結果になりました。物理的な子育て支援のみならず、心の支えや情報交換による子育て支援が求められていることがわかりました。

アンケート用紙

子育て支援に関するアンケート

～お母さんになる方へ～

西東京市では、次世代を担う子どもの健やかな成長と、子育てを支える地域社会の形成をめざして、「西東京市子育ち・子育てワイワイプラン」の次期計画を策定しています。

これから子育てをされる方に、必要な支援等を伺うため、ファミリー学級の参加者の方にアンケートを行っています。ご回答は、計画策定の参考にさせていただきます。

1．子育てのサポートについて　お子さんのお父さん・お子さんの祖父母・友人・近所の人などから、どのようなサポートを受けられそうですか。

（例：お父さんが夜７時頃には帰宅する。子育てについて相談できる人が近所にいる。）

2．あなたの今後の就労予定について　就労のご予定があれば、時期（お子さんが何歳になったら）、働き方（フルタイム・パートやアルバイト等）、お子さんの預け先など、希望を教えてください。

3．お子さんの保育や教育について　あなたが就労されるかどうかにかかわらず、お子さんのためには、保育園や幼稚園での集団生活による保育や教育が、何歳から必要だと思いますか。　また、保育園や幼稚園を選ぶとき、どのようなことを重視したいですか。

4．あなたについて教えてください

西東京市在住：（　　）年　　お住まいの地区：西東京市（　　）町

お仕事の状況：産休中 ・ 就労中で産休取得予定 ・ 専業主婦 ・ その他（　　）

5．西東京市への要望

妊娠期や子育ての支援について、西東京市への希望・要望をご自由にお書きください。

☆★　ご協力ありがとうございました。

お子さんが、元気に産まれてきますように！　★☆

西東京市子ども子育て審議会事務局：西東京市 子育て支援課

このアンケートに関するご質問・ご意見は…

西東京市 子育て支援部 子育て支援課 調整係（田無庁舎１階）
電話：042-464-1311　（内線 1521・1522）
FAX：042-466-9666　E メール：kosodate@city.nishitokyo.lg.jp

まで、お問い合わせください。

子育て支援に関するアンケート
～お父さんになる方へ～

西東京市では、次世代を担う子どもの健やかな成長と、子育てを支える地域社会の形成をめざして、「西東京市子育ち・子育てワイワイプラン」の次期計画を策定しています。

これから子育てをされる方に、必要な支援等を伺うため、ファミリー学級の参加者の方にアンケートを行っています。ご回答は、計画策定の参考にさせていただきます。

1．子育てのサポートについて　お子さんの祖父母・友人・近所の人などから、どのようなサポートを受けられそうですか。また、仕事をされている場合、職場で、どのようなサポートを受けられそうですか。

（例：子育てについて相談できる人が近所にいる。夜７時頃には帰宅できるよう配慮してもらえそう。）

2．お子さんの保育や教育について　お子さんのお母さんが就労されるかどうかにかかわらず、お子さんのためには、保育園や幼稚園での集団生活による保育や教育が、何歳から必要だと思いますか。　また、保育園や幼稚園を選ぶとき、どのようなことを重視したいですか。

3．子育てに関する講習会やイベントについて　市や地域のサークルなどが主催する講習会やイベントに参加してみたいですか。どのような内容のものに参加してみたいですか。

・参加してみたい　内容（　　）

・参加したくない　理由（　　）

4．あなたについて教えてください

西東京市在住：（　　）年　　お住まいの地区：西東京市（　　）町

5．西東京市への要望

子育ての支援について、西東京市への希望・要望をご自由にお書きください。

☆★　ご協力ありがとうございました。

お子さんが、元気に産まれてきますように！　★☆

西東京市子ども子育て審議会事務局：西東京市 子育て支援課

このアンケートに関するご質問・ご意見は…

西東京市 子育て支援部 子育て支援課 調整係（田無庁舎１階）

電話：042-464-1311　（内線 1521・1522）

FAX：042-466-9666　E メール：kosodate@city.nishitokyo.lg.jp

まで、お問い合わせください。

資料８－２

ヒアリングの状況（子育て応援者会議）

子育て支援団体「子育て応援者会議」でのヒアリングについて、概要を報告します。

――――――――――――――――――――――――――――

子育て支援団体「子育て応援者会議」でのヒアリング

(1) 実施日時：平成 26 年２月 19 日（水）　午後２時～４時
(2) 実施者：安部専門委員、吉田委員、事務局
(3) 対象者：大人２人（子育て支援団体の方）
(4) ヒアリングで寄せられた声の概要

① 父親が子育てにかかわれない理由（ニーズ調査関連）
：家計の維持や子育てに自信がないことが要因では

- 調査結果から、父親は、職場での残業を断れず、断るといづらくなり仕事を続けづらくなってくるのではないかと思った。高齢者の訪問をして意見を聞くことがあるが、「せがれがとても遅く帰ってきている。子どものことは妻がすべてやっている。」と聞くことがある。高齢者の方が自分の年金で、若い世代をサポートしているとのことだった。親から独立して暮らすことはできないという意味では、若い世代はある意味貧困なのだと思う。
- 家庭訪問をしているが、パパは協力的で子どもをかわいがっている、と答えるママが多い。だが、帰宅が遅い。若い世代は外に出るような営業の仕事が多い。会社の体制なので仕方がないと、ママは思っている。
- 出産後、頼る人がいなくて、孤独に陥るママがいる。産む前に想像していたより、子どもと２人でいることに孤独を感じる。パパは協力的でも、子育てに自信がなく、ママにパパと子どもがついて回ることになり、結局、ママはリフレッシュできない。
- 実際には、このニーズ調査の結果より、もっと多くの人が「育児は主に母親がするものと思っている」と思う。学校での集まりや学童での集まりも、母親が圧倒的に多い。母親自身が「自分が子育てするもの」と思いこんでいる部分もあると思う。

② 子どもの育ちのために必要な集団での教育・保育（ニーズ調査関連）
：０～１歳くらいから

- 保育者の立場からすると、家庭にいるママの不規則な生活がとても気になるので、子どものことを考えると、０歳から保育所での生活が必要だと思っている。子どもは、ママの前では泣いているが、ママがいなくなればすぐ遊びだす。表情がわかるのは２才からだが、その前の１歳からの保育もいいと思う。
- 親同士が仲良くなることによって、子ども同士が仲良くなり、一緒にイベントをしたり、絆が生まれていると思う。お母さんの笑顔をみて、子どもも笑

顔になり、リラックスできる。親の育ちが子の育ちにつながっていると思う。

③ 保護者の方の成長

：地域とのつながりや、子ども連れが可能な文化芸術活動から成長できる

- 親の自尊感情を改善したい。みんな元気になるきっかけをつかみたいと思っている。他人が介在して、そんな考え方があるのか、ということに気が付いていければ元気になれる。例えば、親に世話してもらった記憶がない人が親になったとき、自分は我慢して生きてきたのに、自分の子どもはやんちゃで、昼に子どもを怒るのだが、夜になるとなぜ怒ってしまったのかと気持ちが暗くなるというケースがあった。そういう人もいていいんだと、アドバイスすると、明るくなった。個別に傾聴しないと、そういう込み入った話ができない。
- ひろば事業に参加しているママは、最初は１人で参加してくるが、メールアドレスを交換したり、そのうち何人かで来るようになる。子どもの抱き方や周りの人たちとの接し方もリラックスした感じに変わってくる。１人目の子どもを育てるストレスから次第に解放されてきたな、と見ていて安心する。
- 市がお茶券を配って、「券が届いたので来ました」といえるような、外とつながるきっかけをつくってほしい。学校の空き教室などの施設に、コンシェルジュのような存在を置いてほしい。いつもこの人がいてくれるという安心感がある集いが大切だ。長年そのような活動しているＮＰＯがたくさんあるので、民間・ＮＰＯを活用してほしい。
- 多世代の子どもの親との交流、外部の大人（周りの大人）と交流することで、ママも育つ。
- 特定のプログラムに参加して、同じメンバーで何度も集まると、仲間になれる。このように仲間をつくれる連続した講座が必要だと思う。ピアサポート（同じような立場の人によるサポート）により心が軽くなる。
- 自分が家で子どもと閉じこもり切りで子育てしていたとき、民生委員の方に「芋掘りがあるから、来ない？」と声をかけられて、そこから知り合いができ、話ができる人を見つけられて、心が軽くなっていった。最初に周囲へつないでくれる人が大事だと思っている。親も周りの人との交流で気持ちが軽くなったり、自分を変えたり成長しているなと思う。
- こども劇場の活動で、0～2 歳の子どもと若い夫婦がジャズを聴くファミリーコンサートが盛況で、当日申込が多かったとの報告を聞いた。親は、気軽に芸術に触れる機会を求めていると思う。
- 公民館で親子活動に参加していた人の中に、参加する側から支援する側なりたいと思う方も現れ、新しく子育てサークルを立ち上げた人もいる。子どもと一緒に遊ぶ中で、ママが変化できると思う。小さい子どもも、いいものを見たり聞いたりすると理解できるのに、子どもが泣いたら回りに迷惑と思い、文化・芸術から遠慮して遠ざかるのは残念だ。
- 保育付の公民館の活動は、あっという間に定員が埋まる。親が何かを学びたいという思考は強いし、親にはそういう時間が必要だと思う。保育付の集ま

りは、０歳から預けられる。公民館の保育付は、保育士さんがみてくれるので、安心して預けられる。その場で少し相談もできる。保育付・無料で、子どもと離れられる講座を多くの親が探している。一時預かり（※１）が充実していないので、保育付講座を探しているという面もある。

- 公民館の活動で無料講座であったとしても、何年もしてから、公民館活動に参加した人たちが、新しい地域活動を行う側になっている例がある。市民の参加費が無料で、市が費用を負担しても、長いスパンで見れば親たちが地域に還元する存在に育っていくので、コストも取り戻せているといえると思う。
- ニーズ調査の中で、講習やイベントでもっとも希望が多いのは運動に関することとなっている。これは、家では運動する場がないから、「運動」が一番多くなっていると思う。乳幼児は、午前しか児童館（※２）を使えない。運動する場を設けてほしい。
- 公民館保育付講座のように２時間でも使う人は多いことから、長時間の保育だけではなく、短時間保育も備えるべきだ。
- 訪問支援も、一時保育も一緒に行うような、多機能に動く施設や体制をつくるといいと思っている。市の体制だけではもう限界だと思うので、地域のＮＰＯや支援団体をもっと活用してほしい。
- 埼玉・神奈川では、ＮＰＯなどを活用して待機児対策を行っていると聞く。

④ 子育てのサポート

：保健師の重要性、協働の体制づくり、発達障害の子どもへの対策等

- 保健師の知識・力量と優しさが養われるよう、市が人材育成と確保に力を注いでほしい。初めてお母さんになる人が最初に接するのは保健師なので、民間力もボランティアも大事だが、まずは保健師が重要だと思う。
- うまく子育てできない親をゆっくり育てて、相談してよかったと思えるような保健師や専門家を育ててほしい。特に相談は、１回でも対応を間違えると印象が悪くなり、もう信頼できないということになりかねないので、慎重に対応できる人材を確保してほしい。保健師が丁寧な対応ができるよう、保健師の増員を検討してほしい。
- 子育て支援全般について、いかにやわらかく民間と公的機関とが、対等にオープンに支援をつくっていくかが重要だ。
- できない理由ではなく、できることの提案を官民一緒に考えていきたい。
- 市は、民間を協働の発想でもっと活用してほしい。
- ワイワイプランは大事だと思う。このプランで、親が支えられているということを実感できるような、市の行政が温かいものなんだということを親にアピールできるような政策をしてほしい。市はがんばっていると思うので、コピー（キャッチコピー）のようなものを、うまくアピールしてほしい。子育てハンドブックも、妊娠中のお母さんに配るときに、保健師から詳しく説明して、温かく接して渡してほしい。
- 新制度で、幼稚園や保育園がどう変わるのか、親に対しての説明会（保育付で、親に対する説明会）も実施してほしい。

- 転入者が多く、マンションができても、それに見合った子育て支援ができていないように感じる。
- 複数のいろんな年齢の子がいるママの子育てしやすさを考えて、認定こども園を充実させてほしい。
- 駅に近い保育所を新設してほしい。
- 他市や区と比べると、保育園・こども園・幼稚園・一時預かりなど、西東京市の子育て支援は、すべてが足りないように思う。
- 多目的な保育をしてくれるコーディネーターが必要だと思う。
- 親の文化的な活動は、人として親が元気に過ごせる方法だと思う。
- 障がい児など困難を抱える子どもへの支援や、要保護児童対策を充実させてほしい。
- 障がいのある子の集まれる場が、必要だと思う。
- 高齢者には地域包括センターがあり、市が民間に委託している「ささえあい訪問」がある。高齢者に１か月に１回１０分程度、訪問して話をする。自分が見守られていて、一人じゃないということが、わかるようなメモやお手紙を配っている。インターネットではない、生身の良さが伝わり、喜ばれている。見守りする人のスキルアップにも、力を入れている。労力は大変だと思うが、支援している側が疲弊しないようなケアも、高齢者対策では進んできている。子育て支援にも、こういうものがあってよいのでは。家の中に民生委員や誰か他人が入れれば、生活が荒れているとか確認できるし、相談にものることもできる。のどかの相談もいっぱいだと聞いているので、相談に対応する職員を増員させて対応してほしい。
- 産前・産後サービスの予防措置に、力を入れてほしい。ホームスタートは虐待予防に寄与すると思う。のどかの相談のニーズが高いのも、虐待予防に寄与している。こういった予防活動や妊活支援を強化してほしい。
- 障害のあるお子さんについて、保育園は対応が熱心だが、幼稚園では受け入れを拒否されることがあった。臨床心理士などが巡回して幼稚園や家庭をサポートしてほしい。
- アスペルガー症候群やADHDなど発達障害のある子どもの心の中で、何が起こっていて、本人自身が何に困っているのかを聴いてほしい。そのため、臨床心理士の巡回を制度化してほしい。

※１一時預かり

１　対象児童

市内にお住まいで、満１歳から就学前までの認可保育園に入所していないお子さんで、継続的、短期的就労等や保護者の社会活動への参加、育児疲れのリフレッシュなど、様々な理由で家庭における保育ができなくなったときに利用できます。

２　利用方法

利用登録（事前）

↓

登録通知書・公共施設予約使用者登録証　が送付される

↓

公共予約サービスにて予約

①抽選予約　⇒　抽選　⇒　当選確認　⇒　確定

（利用したい月の２か月前の 10 日から 19 日までに予約し、抽選で決定）

②随時予約　当月分又は１か月前分で埋まらなかった枠を先着順で申込み

※当日申込み　電話予約のみで直接、各実施園へ平日９時 30 までに連絡

３　利用時間

午前 8：30～12：30・午後 13：00～17：00・１日 8：30～17：00

４　利用料

半日（午前又は午後）　1,200 円/回　・　１日　2,400 円/回

昼食（午前・１日利用）　200 円/日　・　おやつ　150 円/日

※２児童館

・児童館とは、０歳から 18 歳未満までの方なら、誰でも自由に利用することができます。主に午前中に乳幼児向けのサークル活動や、各館で行事を企画しています。館によっては、幼児専用ルームがありいろいろな幼児向けの遊具でゆったり遊べます。

資料８－３

ヒアリングの状況（西東京市パパクラブ）

子育て支援サークル「西東京市パパクラブ」でのヒアリングについて、概要を報告します。

――――――――――――――――――――――――――――

子育て支援サークル「西東京市パパクラブ」でのヒアリング

(1)　実施日時：平成 26 年２月 23 日（日）　午後１時～３時 15 分

(2)　実施者：安部専門委員、加藤委員、事務局

(3)　対象者：大人５人（就学前・小学生のお子さんの父親）

(4)　ヒアリングで寄せられた声の概要

① 子育てで大切にしていること

：産前に始まり産後にも、父親の子育て意識・知識を高めることが必要

- 子どもが生まれる前、妻が NPO から産褥の情報を得て、夫婦ともに勉強になった。産前から父親の出産から子育てへの意識を高めることが大切だ。
- 子どもが生まれてから何が大変なのかは、女性でも初産のときは、わからない。その点を男性も主体的にサポートできるよう考えられるとよい。
- 子育てでは、子どもと同じ目線で話すこと、子どもが納得するように関わること、子どもに対して積極的に触れ合うことを大切にしている。１日１回は、スキンシップをするようにしている。
- 夫婦ともに忙しいとき、夫としての自分の役割を再確認する。やらされているのではなく、自分がやるべきことだと考えている。
- 妻は朝が早いので、自分は保育園の送りをしていた。
- 妻が土曜日仕事の時は、１日子どもの世話と食事の準備、洗濯をしている。自然と分担ができている。
- 妻はアンガーマネージメント（イライラ、怒りの感情を上手に付き合うための心理教育）の講習を受けにいっていた。
- 妻は土曜出勤があり、必然的に自分が子どもを見ることになった。最初は訳がわからなかったが、妻から教えてもらったり、妻の親の協力を得て、子育てをできるようになった。
- 妻の方が、自分より自由な時間が少ないと思うので、妻が自由になれる時間を作るようにしており、妻からは感謝されている。
- 妻をなるべく休ませてあげたい。妻は、子育てを自分がやらなくてはいけないことだと思っているので、意識を変えてほしい。

② 父親が子育てにかかわれない理由（ニーズ調査関連）

：男性の子育ては妻の手伝いではなく、自分がやるべきことという意識が必要

- 学童の父母会に行っても、周りはお母さんばかり。どの世帯も共働き環境なのに、出席するのが母親ばかりなのは、父親の意識の問題なのか。

- PTA も母親が多い。自分の子どもが通っている保育園は、自主運営の保育園で男性の経営知識などがあるといいと思うが、男性お断りという考え方だ。もともと、男性が入りにくいところもある。
- 男性が女性化すればよいということではない。女性がしなくてはいけないと思っているところを、無理やり取り上げると、仕事を奪われた喪失感を与えてしまうおそれがある。
- 妻は、自分の両親が行っていた子育てを目標としており、子育ては母親の仕事と思っているようだ。
- 妻の勤務先では、有休は病気のために使うような扱いになっており、上司も部下もチームでも取得する人が少なく、取得しづらい環境にある。
- ニーズ調査の結果にある、仕事が忙しいから子育てができない人達の中には、母親が育児をすると思っている人も多く含まれていると思う。子育てが自分事になっていないから、自分の中で重要度が上がらないのではないか。このような人が子育てを「手伝い」といっているのではないか。子育ては手伝いではなく、自分が妻と一緒にすることだ。
- 生きていく上で、仕事が一番大切なのか、やはり子どもではないか、と妻とよく話をする。何が大切か気づけないから、忙しい仕事を優先させてしまう。
- 女性側も、男性の足を引っ張ってはいけないと気を使っているかもしれない。
- 男性に対して直接、どのくらい子育てに関わりたいか聞くと、また違う結果になるのではないか。子育てに関わりたくない男性もいるとは思うが、男女でのミスマッチがあるように思う。
- 妻は、妊娠前から自分が子育てをしなくてはいけないと思っていたようだった。産後は、母性が働き産後ハイ状態になり、その後、何もできなくなった時期があった。その様子から、自分が子育てに積極的になった。
- 結婚前から、男性が子育てに意識がないと、両親学級などの講習がたくさんあっても、出席しないと思う。
- 出産前には、子どもが生まれるまでしか思考が及ばない。出産がゴールではなくスタートだということを、女性も男性もわからない。
- 男性は女性が子どもを生んだら、お腹がへこむとすぐに動けると思っている。出産後も出血が１か月続くことや、母乳は血液からできていることも知らなかった。なぜ女性が産後辛いか男性は知らない。
- 男性は、当事者意識を持つことがすごく難しい。自分が親になるまで親に何をしてもらってきたか、わかっていない。
- 職場が育児に寛容な環境だったら、積極的に子育てに関わることができる。自分の勤務先は、育児への理解がまったくないので、育児を優先している自分は、上司に苦情を言われる。子育てにかかわるには、職場環境も大切だ。
- 男性は、育児雑誌を買いづらく、育児情報にたどり着くことが難しい。
- 職場でパパ・ママランチ会をしているが、最近はパパ参加も増えた。この会では、自分の知らないことを、よそのママに聴くことができる。
- 所沢では「産後の子育て・家事サポート・父親学級」を実施する中で、男の

産後手帳が配られるそうだ。実際に起こった事例が記載してあり、とても参考になると聞いている。

③ 子どもの育ちのために必要な集団での教育・保育（ニーズ調査関連）

：０～３歳くらいから

- 子どもに「ふさわしい」年齢という質問が難しい。親から見た正解を求めているように感じる。ママ目線では保育園は０歳、幼稚園は３歳になると思う。遊びの環境でいうと、０・１歳には集団保育は必要ないのではないか。
- 自分の場合は、０歳児の間は家でみたいので保育はいらない。
- 友達と関わりあうのは、１歳後半くらいからだった。３歳ごろには一人より友達と遊びたくなっていたようだ。
- 子どものためというより、母親のために０歳から保育が必要だ。母親は多くのストレスの中で育児をしているので、情報を得たり、愚痴を言える相手がいることは大切だ。
- 年頃になれば、それまで他の子どもと関わりを持たせていなくても、関わりたくなるのか。自分の子どもは２歳で「〇〇ちゃんと遊ぶ」と話すので、その様子をみていると２歳よりちょっと前から必要なのではないか。（０歳同志が遊ぶと刺激になり、発達が伸びるとの意見あり）

④ 保護者の方の成長

：いろいろな人と繋がりを持ち、自分の社会が広がった

- 子どものための環境づくりをきっかけに、自分に合うと思う人以外とも、接する機会を作るようになった。
- 保育園の父親仲間やパパクラブ等の集まりに参加するようになり、子どもを通して、人間関係の幅が広がり、自分の社会が広がったと思う。
- 子どもと対話するには、時間も忍耐も必要なので、人の話を聞くことに対してのキャパシティが広がった。
- 子どもが笑うと誰でも心がなごむので、子ども一人の存在で、いろいろな人と繋がっていけると感じている。
- 子どもを通じて、地域に参加できるようになった。
- 仕事の段取りを考えるようになったり、子どもができてから物事を見る視点が変わった。特に、助けが必要な人の視点がわかるようになった。
- 自分は保育士で、自分に子どもができる前も大切にお子さんを保育してきたが、自分の子どもが生まれてからは、預かっているお子さん一人一人が、それぞれの家庭の宝物だから、より大切に思うようになった。どんな家庭環境であっても、子どもの持っている権利は同じだという思いが強くなった。
- 保育園の民営化があり、親として子どものために何ができるかを考えた。それがきっかけで、勤務している会社の労働組合で、会社の子育て支援環境の改善に関わった。
- 子育て支援制度に興味を持ったのは、子どもがいたからだ。
- 自分を育ててくれた親に、感謝する気持ちを持つようになった。

⑤ 子育てのサポート

：男性への情報提供、病児保育の改善等

- 公民館の講習会でサークルを作る動きがあるが、パパスクール等が公民館等で実施できたらよいのではないか。託児があれば、ママも送り出しやすのではないか。
- 父親の繋がりがあったから、楽しく育児をやってきた。繋がるきっかけがつかめない人達でもアクセスしやすい場が多くあるとよい。
- 自分は保育士だが、男性の保育士だと話しやすいと、パパさん達から言われている。
- 父親学級は休日に設定して、開催情報を広く告知してほしい。
- 父親側への子育て情報が必要だ。母子手帳とセットにして、すべてのパパの手元に届くとよい。
- 男性目線で語られた産後・育児の事例集を、西東京市独自に出してほしい。
- 何でも話せる気軽な相談場所があれば、気持ちが楽になる。仕事が忙しいと、職場しか話す場がない。忙しくても、同じ環境の人と繋がることができる場所があるとよい。両親学級に参加した際に Facebook に参加することもよいのではないか。
- メンタル面等をサポートできる窓口があるとよい。
- 年に数回しか使用しないが、病児保育のサポートがあると、安心して子育てできる。
- 託児か訪問型かという預かる場所は重要ではなく、朝、突然熱が出たときなどに、すぐに対応できる仕組みが必要。
- 病気の時は自分で看病したいが、どうしても預けなければならないときに、現在の病児保育の制度では使い勝手が悪い。すべてを行政が行うのは難しいと思うが、NPO やファミサポなどでも病児保育ができればよいと思う。
- 現在の病児・病後児保育は、朝の始まる時間が遅く、夜終わる時間が早いので、就労していると送迎が間に合わず、使い勝手が悪い。
- 訪問型の病児保育は料金が高いので、助成があるとよい。
- 子育てする中で、一番大変なのは、子どもが病気になったときの対応だ。西東京市には、病児・病後児保育が２施設しかないので、拡充してほしい。
- 埼玉県北本市では、育児休暇中に育児給付金を市で負担するという報道を聞いた。もしこのような制度があったら、市が子育てに対して熱心だなと思い、子育てがしやすいまちだとアピールできる。
- 育休の家計支援を行っていた NPO もあった。このような家庭の収入減を埋める施策があれば、男性の育児取得につながると思う。
- 民営化された保育園には若い保育士が多く、預ける側としては不安だが、公営の保育園にはベテランが多く安心だ。民営化による保育の質の低下を防がなくてはいけない。
- 民営化に反対ではないが、民営化された保育園では、看護師がなかなか補充

されないこともある。何かあったとき対応できないということになれば、最終的には行政の責任になると思う。

- 今は共働きが一般的なので、子どもが減っても保育の必要性は増えている。保育園を新設するには時間もコストもかかるので、学校の空き教室を活用する等、既存の施設で１・２歳の子どもを保育ができるよう考えるべきだ。
- 練馬区では今年、認可に入れなかった子どもが１,５００人いたと聞いている。保護者が抗議をしているが、無理やり収容人数を増員すれば、しわ寄せは子どもにくる。
- 障害児を抱える家庭は本当に大変だ。親が協力的でなく、離婚する家庭などもある。
- 市内にあった大手企業が市外に出て行き、市の税収面は厳しくなっていると思う。若い世代を呼び込み、税収を上げて、子育て世代にサービスを提供してほしい。
- 多くの時間を過ごすことになる保育園や学校の環境が、子どもの満足度に大きく関わっていると思うので、学校等の社会環境をよい状態に維持していきたい。子ども達が幸せになれる手伝いをしたい。

資料８－４

ヒアリングの状況（学童クラブ利用者）

学童クラブ利用者へのヒアリングについて、概要を報告します。

――――――――――――――――――――――――――――

学童クラブ利用者へのヒアリング

(1)　実施日時：平成 26 年３月 16 日（日）　午前 10 時～12 時 25 分

(2)　実施者：三浦委員、事務局

(3)　対象者：大人 10 人（小学生の母親・父親各５人）

(4)　ヒアリングで寄せられた声の概要

①　働きながら子育てする上で、お子さんを過ごさせたい場所

：子どもの居場所を把握しておきたい

- 親としては、子どもの居場所を把握しておきたい。児童館に行きなさいといっても、実際は行っているのか不安だ。塾のように、出欠がわかる仕組みがあればよいと思う。
- 児童館や学童クラブ等、いろいろな事を学べる場所にいてほしいと思うが、基本的には大人の目が届くところにいてほしい。
- 大人が見守れる場所であってほしい。今の学童クラブのよい点は、必ず指導者がいることだ。子どもが聞いてほしいことがあったり、大人のそばに寄り添いたいと思うとき、指導者の存在がありがたい。親とも学校の先生とも違う、中間的な存在の大人が子どものそばにいてくれるというのが、すごくありがたい。高学年が上がっても、今までの成長過程を見てくれた人が、延長して見てくれる場所があればと思う。
- 子どもは、大人がいることを嫌う部分もある。児童館でも校庭開放でも大人はいるので、大人がいなくても、子どもたちだけで、安全安心に遊べる場所がほしい。
- コミュニケーション不足になってくるので、あまりゲームばかりで遊んで欲しくないと思う。子どもが集まって遊ぶことができる場を作ってほしい。
- 自分が 4:30 に起きて家事をしてから子どもを起こし、5：30 から１時間くらい勉強をみて、学校・会社に行くようにしている。誰かが勉強を見てあげるとか、話しを聞いてあげられるとか、そういう場所があれば助かる。
- 子どもが大きくなるほど、他学年と交流できる場所が必要だと思う。
- 第１に安全である事。教育上、好ましい環境、経験させたくないものがない様な場所であってほしい。特に低学年の時には触れさせたくないものがあると思うので、そういうものがなるべくないような場所にいてほしい。学校と家庭以外に、子ども自身が心地よく過ごせる場所があったらよいと思う。
- 学童クラブに通っている子ども達は、周りの子ども達が遊んでいる遊びを知

らなくて、一気にはじけてデビューする子どももいると聞く。うちの子どもは、自分で友達と約束して、自分で好きな場所を選んで遊ぶことができないので、遊びの環境を大人が用意してほしい。

- 親が仕事中、代わりになる場所となると、学童クラブだと思う。学童クラブは、子どもにとって、ホッとできる場所であってほしい。
- 東日本大震災の時、保育園では、取り合えずここに聞けば瞬時にわかるというシステムがあったが、学童クラブはどうなのか、同じような環境が整えられているのかと思った。

② 放課後、お子さんが自分らしくいられる場・安心して過ごせる場
：自分のペースで自然に過ごせる安全な場所

- 子どもは一人で家に帰ってきたくないようで、特に冬は電気のついていない家に帰宅するのを嫌がり、親としても好ましくないと思っている。電気がついていて明るくて、誰かが「お帰り」と言ってくれる場所で、放課後を過ごさせたい。
- うちの子どもは、学校や家よりも、学童クラブが楽しいようだ。子ども同士のトラブルはどこでもあると思うので、そういった中からもいろいろなことを見つけてほしい。学童クラブのように、学校でも家でもない緩やかな場所で、勉強とかお稽古事とか特別なプログラムがなく、自然に過ごせる場所がたくさんあればよいと思う。
- のんびりできて、やりたいことをできるような息のつける場所で放課後を過ごさせたい。
- 学校や家ではなく、息抜きをしてから家に帰って来て、ストレスを感じないで１日を終われるような場所があればと思う。
- 一人で自由に過ごせる場所が、一番自分らしくいられるのかなと思う。友達と過ごせる場が、友達の家だけだと、友達のテリトリィになってしまうので、放課後の校庭や図書館、ショッピングセンターの喫茶コーナー等の公共の場が、自分らしくいられる場所だと思う。
- 大人が全く見ていないと、子ども達同士で気を付けて、怪我やトラブルが起こらないという事を聞いた。大人が常に一緒にいると、子どもが自分で安全かどうか、よいか悪いかを判断する力が育たなくなるところがある。特に高学年になると、大人の手を借りずに、自分で判断ができたり、行動が出来たりするくらいに離れた接し方が、その後の成長に求められると思う。そういう事ができる場所が、子どもが自分らしくいられる場所かなと思う。
- 子どもが自分でチョイスできるいろいろな場所があると、そのときに一番自分らしくいられる所を見つけられるのかなと思う。自分が安心できる場所、立ち寄れる場所、何かあった時には助けを求められる場所等が、子ども自身の選択肢の中にたくさんあるとよいと思う。
- 中学校では活動範囲が広がるので、小学校高学年から、徐々に行動範囲を広げていき、その中で自分達が安心して行動できる場所を見つけていければよいと思う。行動範囲を自主的に広げてほしいということと矛盾するが、親と

しては子どもの居場所を把握しておきたいという気持ちもあり、それが両立出来るような仕組みがあるとよい。例えば、高学年になったら電車で遠くの児童館に行ってもよいという制度も考えれる。その児童館に行ったとわかる仕組みがあれば、行動範囲は広げてよいと思う。

- 低学年の間は、学童クラブが一番よいと思っている。
- 子どもが素の自分でいられるのが、学童クラブだと思う。教師は評価するし、親も、本当はしてはいけないが、評価する。そういう事のない大人の下で、自由に遊んでいられるので、学童クラブに行っている間が一番、素の自分を出して過ごせているのかと思う。
- １人で行動が取れない子にとっては、学童クラブが安心できる場所だと思う。親としても、何かあったときに駆けつける場所が明確なのは、安心できる。
- 児童館や学童クラブでは、自分を出せているようだ。自分を出せる場所が複数あって、今はよい環境だなと思う。放課後、勉強もみてもらえる民間の学童クラブもあるので、そういう所にも通わせてみたいという親の希望もある。

③ お子さんの自立（自分の意思で選択し始める時期）
：小学校４年生～高校生

- 自立に向けてのステップが、小学校４～５年生なのかなと思う。生活面の自立でも、小学校の４～５年生位と思う。学校が終わって、塾までの時間、どのように過ごすか等を考えて進んで行く時期だと思う。
- サッカーをしたいからスポーツ系に強い学校に行くといった話を聞くと、将来を考え始めるのは、６年生位だと思う。
- 小学校６年生の子がやりたい事をやるために「自立」を宣言し、ジュニアリーグに入ると決意した例を聞いた。子ども自身の意識で決定して実行した、まさに自立の典型例だと思う。
- ６年生は、小学校の中で最高学年として扱われるので、子ども達にも最高学年としての意識がある。その意識の中で、中学校に入ってからの進路も考え始め、段階を踏んで自立し始めていると感じる。そう考えると、自立し始めるのは、６年生位ではないかと思う。
- 中学生は、ある程度自立した行動が取れないといけない時期だと思うので、その準備として、小学校６年生には、ある程度自己判断ができないといけないと思う。５年生を準備期間として、６年生位になると、ある程度自立して、責任を持って判断し行動していく事を意識する時期かなと思う。
- 小学校４～６年生になると、自分がやりたい事が言えるようになってくるが、それが自立の前段階かなと思う。中学校２～３年生になると、自分の考えで行動する様になり、自立してきたと感じる。
- 準備期間を経て、段階を踏んで、自分の考えで行動ができるようになり始める時期は、小学校６年位から中学校に上がる位だと思う。
- 高校に通えなくなった子ども達に話を聞くと、自分で進路を決めたのではなく、親が決めたから進学したのだと、親を逃げる口実にして、自分で努力をしていないケースも多い。そう考えると、中学校の間に自立して、自分の意

志で進路を決めて進まないと、その先、立ち行かなくなるのだと感じた。

- 自立は、取捨選択することだと思うので、高校生位かなと思う。
- 自立というのは、自分がとった選択等に責任がとれることだと思うので、高校生位かなと思う。実際に子育てしていると、義務教育が中学３年生までと決められていることは、妥当だと思う。生活における身の回りの自立は、小学校位までに身につけてほしいとは思うが、本当の自立という意味では、思春期が終わる位までの時間は必要だと思う。

④ 保護者の方の成長

：経験者や意識の高い人との交流で気付く。振り返ると自然に成長していた。

- 意識の高い人達と話す機会が、自分自身の成長につながっていると思う。その中で、自分に足りなかった事に気付くことができる。
- 経済的なゆとりがほしいこともあり、仕事は自分がやりたくてやっていたが、子育ての方が大変だから仕事を選んだ面もあった。仕事メインで子どもは預けるだけになってしまったり、みんな成長がゼロになるようなときがあるものだと思う。私自身の成長は、自分自身ではわからず、周りに言われて初めて感じていた。日々時間に追われる毎日なので、自分自身の成長よりも、子どもの成長を見て、自分の成長を実感するところもある。
- 共働きなので、どちらかがいないと片方が食事を作らないといけなくなるが、子どもとコミュニケーションをとりながら、子どもが食べやすいように野菜の切り方を工夫したりして、ずいぶん家事が上達した。
- 親の都合で保育に通わせているが、子どもにとってどういう保育が必要なのかなと考えるのが、１つの成長だと思う。
- 各々の意識の持ち方だと思うので、どんなものを用意されようと、その人のアンテナにかからなければ、もう成長はしないと思う。
- 働く母同士の繋がりの場がいろいろあったので、サークルのような形ではなく、誰でも自由に出入りできるような場所があればよいなと思う。
- 仕事が忙しい中、無理して会合に参加し、話をすると、やはり得るものがある。人の話を聞くと気付く事が多い。
- 親が出て行かないといけない行事があると、今でもわずらわしく思うが、そういう場所は必要で、親としては自分の成長のために必要だと感じることがしばしばある。
- 経験者の話を聞く事で、悩まなくてもいいんだとわかって、気持ちが楽になり、自分も子どももピリピリする事がなくなってくるので、そういう機会が必要だと最近すごく感じている。
- 子どもが小学校にあがり、学童クラブに入ってからは、親同士の情報交換の場があって親の成長になっている。このような場所の提供は重要だと思う。
- 市で企画する講座やイベントで、質疑応答で終わるのではなく、最初に最近の子育て事情のような話をして、最後に皆さんどう思われますかといった投げかけと意見交換できる場があると、すごく成長があると思う。
- 子育てによって、視点も広がったし、考え方も幅が持てたと思う。子どもが

属する保育園や学童クラブ、学校やお稽古事の集まりの中で、いろいろな人の意見を聞いたり、話す事によって、成長できるのだと思う。

- 3.11 の東日本大震災で、インターネットの情報だけではなく、地域や人との繋がりが大事だと意識が変わった。対面で人を知り、対面でコミュニケーションをとって、わかり合うことが必要だと感じた。
- ニーズ調査の結果で、子育てを楽しいと感じる事が多い方が、フルタイムで共働きの方に多かったとのこと。自分が育休で家にずっといるとき、子育てに煮詰まる感じがして、早く外に出たいと思って復帰した事を思い出した。働く事で気分転換でき、子育ての悩みが和らぐ事に繋がるのかなと思った。
- 自分自身のための時間をとれることが、親が成長し、子どもの成長にも繋がると思う。

⑤ 子育てのサポート（口頭では発表せず、ふせんに意見を記載いただき収集）
：職場での休暇取得の理解、友人や地域との付き合い、保育所・学童クラブ・病児保育・ファミリーサポートの拡充等

●勤務先からのサポートとしては、育休・時短の制度がある。取得のためには、直属の上司だけでなく、その周りの社員も理解してもらえる状況が必要だ。サポートしてくれる社員を、きちんと評価する制度がほしい。

●勤務先からのサポートとして、先輩ママからのアドバイスがもらえたり、急な休みのとき職場でフォローしてもらえる。

●勤め先の女性に、未婚が多い。子育て中への理解があるとは必ずしも言えない。保育園ならまだよいが、子どもが小学生だと、子どもを理由とする休暇を取得しにくい。

●近くに自分たちの親が住んでいて助かっている。

●夫からのサポートは、少しだけである。

●子どもが入学してからの友人とは、家族ぐるみの付き合いができるよう心がけているので、お互いに持ちつ持たれつの関係を築けている。

●自治会（街角に立って、声掛け運動）のサポート：自分も役員をやっていた。子どもが顔を知ってくれていて、子どもからも声をかけやすかったようだ。

●ご近所づきあい・地域でのサポートが大切だ。

●地域の方のサポートについては、保育園・学童で知り合った方と、多少助け合いがある。ファミリーサポートやシルバー人材センターの利用がもっと気楽にできるとよい。

●市に期待するのは、ファミリー・サポートや病児・病後児の支援。災害時には、児童館で、子どもの保護と支援をお願いしたい。

●自分が受けたサポートは、保育園への入所がある。保育所に子どもを預け、仕事へ復帰したことは、煮詰まる子育てからの解放となった。

●自分が受けたサポートとしては、祖父母等の家族からの協力や、子どもが病気の時の支援がある。

●いざというときに助けてくれる手や場所があると安心。急に親に何かがあったとき、学童クラブなどが対応してくれるサービスがあるとよい。

●保育園と学童クラブの充実は、夫婦２人で子育てをする上で欠かせない。
●高学年になったときの居場所が必要。喫緊の課題なので、早急に設置を。
●市のサポートでは、産後うつだったので、保健師の家庭訪問・面談が助かった。強制的なものはいらない。こういうサポートがあるよ、という情報提供が必要。
●健診時、心療内科ドクターが母親を診てくれた。実母より、自分の苦しくなった時、話を聞いてもらい、助言をもらえた。
●病気のときに仕事を休むのが難しい。軽い風邪等でも預けられる仕組みがほしい。育休が取得しにくい職場にいて、周りに預けられる環境もないため、子どもが増えると病気のときに対応できない。
●NPO の子育て支援サービスを利用して、料理と洗濯法を習い、参考になった。